

# 繋がりを生かして

大分 IYEO 東南アジアの船 2008 年参加 寺田 豪淳

震災から6日後、寺院の同級生の依頼を受けて7人の若手で熊本市内へ。震源地からは約20キロで瓦が落下、倒壊している家も多々あった。同級生の寺も瓦が落ちたり、石垣や灯籠が倒れたり、見るだけで心が痛んだ。何度も自分の寺と重ねてぞっとする思いをした。電気は大丈夫だが、水道が使えず炊事やトイレなども困っているということだった。

私たちがお手伝いしたのは散乱した本堂内部の掃除と片付け。余震の中での作業であったが、こんな状態であるからこそお参りに来た方を受け入れたという同級生の強い気持ちを感じた。

車には現地でも必要と聞いたできる限りの水やレトルト食品、下着などを積み込み、地域の方に配布した。寺はまさに地域の支援所として機能していた。

現在はいろいろな避難所がボランティアの募集を始めたようだ。何かお手伝いをしたいと思う人は多いと思う。しかし、まず大切なことは被災者が今何を望んでいるかということを知り、次にどうやってそこに届けるかということだ。組織が大きくなればなるほど、物資や資金を均等に配分しなければならず、必要としている方に届くまでどうしても時間が掛かってしまうという現実もある。また、時間が経つにつれ必要なものも変わってくる。外部からそれを知るためには、これまでの繋がりを生かすということ以外ないのではないだろうか。草の根でニーズを聞きそれぞれでできる手助けをしていただきたい。我が大分県でも別府、湯布院に避難者が多数いる。ぜひこちらにも支援をお願いしたい。

大阪府IYEOでは熊本地震への対応として、被災した会員へのフォローと支援物資の調達のため、IYEO本部が開始した支援募金に会費から10万円を拠出しました。また、個別での募金も募っていますので、御協力の程をよろしくお願いします。

## 募金先

■口座名称：日本青年国際交流機構

■口座番号：

【ゆうちょ銀行から】郵便振替口座 00140-3-73972

【他行から】銀行名：ゆうちょ銀行、金融機関コード：9900、

店番：019、預金種目：当座、

店名：〇一九 店(ゼロイチキユウ店)、口座番号：0073972

■募金額：1,000円以上

■募金期間：平成28年5月31日(火)まで

\*備考欄記載、またはオンラインフォーム

(<http://goo.gl/forms/UxyKC2c6Fm>)にて、

「1. 熊本地震の被害に対する支援金、2. 氏名、

3. 参加事業年度」を御連絡ください。

## information

### 平成28年度 国際青年育成交流事業の受入決定

大阪府青年国際交流機構は平成28年度国際青年育成交流事業の受入を行いません。詳細スケジュールは未定ですが、右記の内容での受入となります。つきましては、会員の皆様へ受入の準備及び、当日スタッフとしてお手伝いをお願いしたいと考えています。実行委員会を立ち上げて準備を行いますので、お手伝いをお願いできる方は下記までご連絡ください。

また、ホストファミリーの募集も行いますので、会員の皆様には優先的にホストファミリーの枠を割り当てたいと思います。詳細が決定後、正式に募集を行いますが、ホストファミリーを早期に確保したいため、ご興味のある方はご一報頂けると幸いです。皆様のご協力をお願い致します。

#### 受入内容

日時：10月5日(水)～9日(日) 5日間

内容：ホームステイ、地元青年との交流、その他

受入国：ラオス・バレーン

#### ホストファミリー募集

日時：10月5日～9日 3日間

受入青年：各家庭1人

【問合せ先】 Mail:osakaiyeo@gmail.com

※ホストファミリー、実行委員会、当日スタッフのお問合せは上記までお願い致します。

Facebookにも情報を掲載していきます。

「大阪IYEO」で検索して下さい！

## 役員・新人研修 と 総会 同時開催!!

平成28年度大阪府青年国際交流機構総会

平成28年6月12日(土)

コミュニティプラザ平野(平野区民センター)

〒547-0011 大阪市平野区長吉出戸5-3-58

(地下鉄谷町線 出戸駅 下車4番出口東200m)

▶役員・新人研修13:30～15:00

▶総会15:00～17:00

## 会費納入をお願いします!

現在、大阪IYEOは約450名の会員数になっております。うち日頃の活動に参加いただいている皆様は1割程度です。受け入れ活動等の事業参加は、難しい方もいらっしゃると思いますが、ぜひ、時間をつくって活動現場にもいらしてください。また、国際交流活動を支える大切な財源の会費の納入にもご協力をお願いいたします。

年会費：3,000円 振込先：ゆうちょ銀行

「大阪青年国際交流機構(オオサカセイネンコクサイコウリュウキョウ)」

14170-93715661

※他行から振込みの場合⇒【店名】四一八支店 (読みヨイチハチ)

【預金種目】普通預金 【口座番号】9371566

## 編集

## 後記

先日私が参加した東南アジアの船と一緒に参加したフィリピンの友達の友達が日本に旅行に行くからぜひ案内してくれないかと頼まれ、観光案内させていただいた。友達の友達までもがこうしてつながりをもてるとは、おそろべしグローバルネットワーク！やはり国際交流で培った心の宝は何にもかえがたい、ありがたいものだ。(広報部・川井田)

# MIOTSUKUSHI

## Hope

くじけず、まえをみて。。。

もちろんココロは ともにいる。

# 漣標

みおつくし

2016年5月1日発行

# No.93

大阪府青年国際交流機構  
会長 大橋 克俊

## CONTENTS

帰国報告

平成27年度「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」

平成27年度「国際青年育成交流」事業

大分IYEOメンバーからのメッセージ・募金のお知らせ

大阪IYEO総会のご案内 ほか



# 平成27年度グローバルユースリーダー育成事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」

訪問国 インド・スリランカ民主社会主義共和国

## 生涯の財産

滋賀大学経済学部 上小澤 圭那

高校生の時に、ヨーロッパで、様々な国からやってきた留学生たちと勉強しながら2週間共同生活をしたことがありました。そして、大学で学んでいくうちに、発展途上国のインフラ整備と、成長するアジアの市場に興味を持ちました。

『電波のない船の上で、世界中から来た人々と、1か月の船上生活、そしてインドとスリランカへの寄港』そんな素敵なプログラムに、参加を申し込まない理由がありませんでした。

このプログラムでの私の大きな思い出のひとつは、日本人の参加者と2人で、日本の自殺問題と自分がやっている、プレイバックシアターという即興劇についてのセミナーを開いたことです。自分が何かを人に伝えて、それについての反響があるということのやりがいと厳しさを痛感しました。

船の中では、本当に様々な人と知り合いました。デザイナー、日本語教師、ソーシャルワーカー、国連職員、音楽教師、Youtuber、写真家…様々なバックグラウンドを持った人と色々な話をしました。メキシコ代表団の大学生がボランティアで消防士を始めたきっかけ、ロシア代表団の方が19歳で結婚したきっかけ、内定を蹴ってまで船に乗った日本の大学生、ナショナルリーダーが人生2回目の乗船を決意した理由……。プレイバックシアターという即興劇では、観客のストーリーをその場で演じます。どの人にもそれぞれの人生があり、船の上で“Everyone has a story”を体感しました。

事業が終わりに近づいたころ、グループワークが上手くいかなかったことで、グループの雰囲気が悪くなったことがありました。しかし、そこからグループ全員で、夕食を一緒に食べなが

ら、改めて、自分がどういう人間で、今までどんなことをしてきた、この船で何を学んだのか、という“Story”を話すという不思議な機会が生まれました。レストランが閉まったら場所を変え、メンバーの入れ替わりはありましたが、4時間近く話しました。話しながら泣いたメンバーもいました。それによってよりグループの関係が深まり、それまで以上に離れがたい、家族に感じるようになりました。

プログラム中、ディスカッションやセミナーで、質問の意味が分からなかったり、話の流れに付いていけなかったり、英語の能力が低いことで何度も本当に悔しい気持ちを味わいました。それが、今の留学での英語学習に繋がっています。この経験を、単なる経験で終わらせるのではなく、自分と日本の未来に活かし続けられるよう、努力していきたいと思います。



事前研修  
明治神宮にて



船の上から  
ナマステ~



日本の文化  
伝えます!



いつか、また世界のどこかで

# 帰国報告

## 平成27年度国際青年育成交流事業

# ラトビアでの 出会いを通じて

大阪大学 木学 直子

自分は将来どんな仕事に携わりたいのか、在学中に成し遂げたいことは何なのか一悶々とした気持ちで大学生活を送る中、偶然この事業のパンフレットを手に入れた。外国青年とのディスカッションやホームステイ、様々な機関の視察や表敬訪問など盛りだくさんの派遣事業はとても魅力的で、自分を変えるきっかけになれば、という思いで申し込みを決めた。

ラトビアで過ごした18日間は一日一日が濃密で、消化しきれないほど多くの経験や感情と向き合うことになった。そしてそのすべてが自分を大きく変え、成長させてくれた。

まずホストファミリーとの出会いである。2泊3日のホームステイでは、ラトビアでの生活を肌で感じる事ができた。秋のキノコ狩りは日常的なレジャーであること。数多くの民謡があり、歌を愛でる民族であること。情報として知っていたこれらのことがラトビア人の生活の一部である様子を目の当たりにし、ラトビアという国をより身近に感じるようになった。ホームシックならぬホストファミリーシックになってしまうほど温かく、愛に溢れた家族の一員として過ごした3日間は私の心を優しく穏やかなものにしてくれた。



ホームステイ先の  
ホストファミリー。  
あたたかく迎えて  
いただきました!

次にラトビア人青年との出会いである。18日間を通して、様々な分野で活躍する多くのラトビア人青年との出会いがあった。彼らは自分に何ができるのか、社会にどう貢献していくのか、ということに常に具体的に考え、責任を持って行動していた。と同時に、日常生活に手いっぱいである社会的活動に消極的であった自分を恥ずかしく思ったのである。彼らの勇ましい姿に少しでも近づけるよう、もっと主体的に行動していこうと強く思えた。

そして最後に、この事業を通して得ることのできた最も大きな財産といっても過言ではないのが、団長・副団長をはじめとするラトビア団員との出会いである。生まれ育った場所も、積み上げてきた経験も、興味関心のある事柄も、この事業への参加を決めた理由までも、すべてが全く異なる個性溢れるメンバーであったが、だからこそ彼らからたくさんの刺激を受け、その一瞬一瞬が学びの連続だった。団員それぞれとの対話を通して得た新た



首都リガの旧市街



ケメリ国立公園にて

な知識や考え方が私の視野を大きく広げてくれたのは言うまでもなく、普段の行動からも感じてとれる団員一人一人が持つ熱意にも大きく心を揺さぶられた。挑戦することに貪欲で、何に対しても全力でぶつかっていく姿は眩しすぎるほどであり、失敗を恐れて踏みとどまってしまうがちだった私の背中を何度も押してくれた。団員一人一人には尊敬と感謝の気持ちでいっぱいである。



ラトビアのフリースクール  
(小学校のような場所)での  
子どもたちとの交流。  
みんな元気でカワイイ!



料理教室にも  
参加しました!



Liels paldies!  
(どうも、ありがとう!)